

オランダとスコットランドの異文化交流

2019/12/02

本校の JET 教員ハリーと旧友 Cathy さんに、英語コミュニケーション英語 I の授業に参加して頂き、スコットランドとオランダにちなんだ Festivals and Celebrations について紹介してもらいました。30枚にもなるスライドの紹介資料をもとに、グループ毎に意見交換した結果を発表します。授業の様子を幾つかご紹介します。



■ スコットランドの伝統：バーンズナイト

毎年、恒例のお祝い事として行われるバーンズ晩餐会。これはスコットランドの詩人、ロバート・バーンズの生涯と作品を評し、彼の誕生日である 1 月 25 日前後にお祝いする行事です。伝統的な衣装を纏い、スコティッシュ・カントリーダンスを踊り、「ハギス」という茹でた羊の内臓（肝臓、心臓、腎臓、肺など）のミンチを、麦やタマネギ、ハーブと共に羊の胃袋に詰めて茹でるか蒸すかした料理を食べるそうです。今回は、ハリーとケイティさんにダンスを実演していただきました。



スコットランドでは、中学生位の歳になると、学校でこのダンスを踊るそうなのですが、なんと、男子生徒が女子生徒に「踊ってください」とお願いをしなければならないというルールがあるのだそうです。そこで、生徒に Questions が出されました。

What do you think it would be like to learn these dances at high school?

How do you feel if you should ask your classmate to dance with you?

生徒の中には、“I must be embarrassed!”という声が多い中、“I think boys are lucky because they can dance with their favorite girls.”、“なぜ女子から男子を誘うことはできないの?”という女子目線の意見もありました。さておき、スコットランドでは、ジェントルマンになるための教育が小さい頃から行われているのでしょうか??

■ オランダの祝日：キングズデイ (King's Day)



オランダでは国王の誕生日を、国を挙げてお祝いするそうです。王家のカラーであるオレンジの洋服や帽子を身につけて、国中がお祝いムードになるそうです。

■ オランダの St Nicolas Day(12/6)は、クリスマス？！



St Nicolas Day は、子どもにとって大切な日。なぜかという、プレゼントをもらえるからです。写真をよく見てください。サンタとは違う服装をしたセントニコラスが、トナカイではなく、白馬に乗っていますね。前夜子どもたちは、暖炉(ヒーター)の前に靴下を置いておくと、次の日にプレゼントが入っているそうです。

■ 大晦日 Hogmanay:スコットランドの New Year は、お客が来るまで外出できない？！

スコットランドの伝統として、夜中の12時の鐘が鳴り終わると、家で最初の来客を待つという慣習があるそうです。その来客の最初の一步 (first foot) が幸運をもたらすということで、訪問客には、贈り物がふるまわれるそうです。外では、幻想的な篝火や花火でお祝いをします。



■ What is New year like in Japan?

私が見学したクラスでは、時間切れで発表できませんでしたが、他のクラスでは、生徒が発表したそうです。日本の文化について、英語で説明するという体験ができたのではないのでしょうか。

Cathyさんは、先月に引き続き、今日を含めて3回来校してくれました。生徒たちが、生き生きと授業に参加し、英語を使って奮闘している様子は、微笑ましかったです。これを機に、英語を学習するモチベーションを高く持ってもらえたらと思います。Cathyさんは、今週帰国されますが、来年春にJETとして採用され、また遊びに来てもらえることを願っています。

I think that her coming has encouraged students to study English more and has brought awareness of the importance to learn a lot of things besides English. However, please make sure that it takes a lot of time and efforts to learn English. Perseverance is vital to success. Good luck!